

“はたらく”を助ける デジタルグッズ いいディスプレイを使えば 作業効率もプレゼンカもアップ



ディスプレイはパソコンを使っているあいだ、常に見続けている重要な機器だ。しかし画面が小さすぎて思うような表示ができなかったり、画質が今ひとつで目が疲れやすく感じたりしていないだろうか。もしそうなら、ボトルネックになっているディスプレイの問題を解決すべきだ。

ハイスペックなディスプレイで作業効率アップ

オフィスでの作業なら、大型で画質のいいディスプレイを導入すればたくさんのメリットがある。画面が大きく見やすければ気持ちよく作業できるし、解像度が向上すれば多くのウインドウを並べて表示でき、作業がはかどる。利用中のパソコンにディスプレイを追加してマルチディスプレイ環境を整えれば、デスクトップ画面を広く使うことができ、1台のディスプレイに表計算ソフトや Web ブラウザを表示して、それを見ながらもう1台のディスプレイで文書を作成するなど、さらに効率アップが期待できる。

ディスプレイ選びのポイントは、画面サイズと解像度、画質、映像入力端子の種類だ。画面サイズ（画面の対角線の長さ）は設置スペースに合わせて選びたい。置き場所がなければ 21 型クラス、余裕があれば 24 型～27 型のものが大きさと見やすさのバランスがよい。解像度とは、画面に表示できる情報量をドット数で示したものだ。フル HD（1920×1080 ドット）が一般的だが、24 型～27 型では WQHD（2560×1440 ドット）や 4K（3840×2160 ドット）のものがああり、フル HD よりきめ細かな表示ができる。

画質では、発色やコントラストが良好なのはもちろん、画面の隅々まで均一な明るさで見やすいことや、斜めから見ても見え方が変わらない視野角の広さが大切だ。映像入力端子はビジネス用のデスクトップパソコンに多い DVI、ノートパソコンに多い HDMI と DisplayPort の 3 種類あれば接続に困ることはまずない。そのほか画面の高さの調整機能や、回転させて縦向きにして利用できる機能があると便利だ。たとえば回転させて画面を縦長にすると、縦に長い Web サイトが見やすくなる。

EIZO「FlexScan EV2785」は、IPS 方式の 27 型液晶パネルを搭載したディスプレイだ。解像度は 4K で、映像入力端子は 2 つの HDMI、DisplayPort のほかに、USB Type-C を備えるのが特徴。映像出力が可能な USB Type-C 端子を備えたパソコンと接続すると、映像の表示、音声の再生、USB 信号の伝送、ノートパソコンへの給電が USB ケーブル 1 本でできる。画面を縦向きにして使うこともできる。



EIZO の 27 型 4K ディスプレー「FlexScan EV2785」。

“はたらく”を助ける **デジタルグッズ**

高さや向きが調節ができ、縦向きでの利用も可能。縦に長い Web サイトを一覧するとき便利です。

モバイルディスプレイでプレゼン力を上げる

外出先でパソコンを使うことが多い人や、営業などでパソコンの画面を人に見せることが多い人なら、モバイルディスプレイの導入を検討してみよう。モバイルディスプレイは薄型軽量なのが特徴で、モバイルノートといっしょに持ち歩いて出張先のホテルやコワーキングスペースなどでマルチディスプレイ環境を作ったり、あるいは対面にいる相手にディスプレイを向け、自分はパソコン側のディスプレイを見ながら説明するといった使い方ができる。

レノボ・ジャパン「ThinkVision M14」は 14 型モバイルディスプレイだ。解像度はフル HD で、約 570g と軽く持ち運びしやすい。映像入力端子は USB Type-C で、電力もここから入力する。映像出力可能な USB Type-C を備えたモバイルノートと組み合わせると、USB ケーブル 1 本で接続するだけで映像信号と電力を入力できる。



レノボ・ジャパンのモバイルディスプレイ「ThinkVision M14」。



モバイルディスプレイを相手側に向ける形で、プレゼンなどに役立つ。

良質なディスプレイは作業効率アップや眼の疲労低減に役立つし、外出先ではモバイルディスプレイが効果的だ。パソコンを使っていてディスプレイに不満を感じているのなら、惜しまず投資しよう。快適な作業環境を整えることは、パフォーマンスアップの第一歩だ。

【湯浅英夫/IT・家電ジャーナリスト】

